

T_{eachers} - M_{useum} 通信 2022 No.4

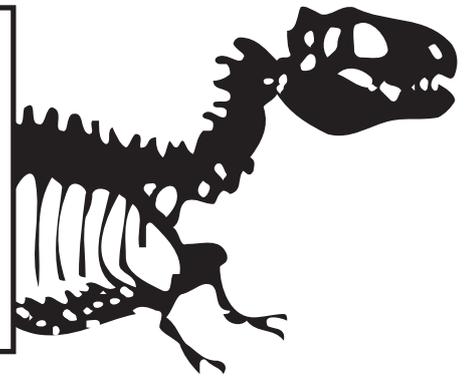
2023/3/31

編集・発行：大阪市立自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 tel 06-6697-6221 (博物館代表番号)

<http://www.omnh.jp/> (学校向けページやキッズページも充実してます)

e-mail: tm@omnh.jp



※PDF版のTM通信をダウンロードしていただけます。<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>の「インデックスツリー」で「TM通信」を選択し、各号のPDFをダウンロードして下さい。バックナンバーもダウンロードできます。紙版からメール版に変更をご希望の方は上記までご連絡下さい。

■特別展「毒」開催中！ 5月28日（日）まで開催しています■

博物館では3月18日から特別展「毒」が始まりました。毒々しいポスターやチラシを目にした方もおられるかもしれません。毒は、実は私たちの身の回りあらゆる所にあり、私たちが食べているものでさえ、状態や場所によっては毒になることが分かっています。毒展では最初に、身近な毒を紹介していきますが、意外なものが毒を持つことに驚かれるかもしれません。特別展の核心は、毒を持つ生き物やその毒性の紹介です。毒を持つ植物や動物はとてもたくさんいますが、これらの生き物は毒をどのように使って生き抜いているのか？進化の側面も含めて紹介していきます。人と毒との関わりについても紹介しています。毒は恐ろしいものですが、人はただ恐れて避けるだけではなく、それを狩猟や薬などにうまく使いこなしてきました。毒が無ければ、人の生活は現在と大きく変わったものになったかもしれません。

展示ではこのほか、イラガやハブ、オオスズメバチの拡大模型が本当に良くできていて、大迫力です。見所満載の毒展にぜひお越し下さい！



▲ひとめ見て、毒とわかる毒々しい配色の
ベニテングダケ(上)とキオビヤドクガエル(下)

■開催概要■

1. 名称：特別展「毒」
2. 主催：大阪市立自然史博物館
3. 会期：3月18日(土)～5月28日(日) ※開館時間：9時30分～17時(入場は16時30分まで)
4. 休館日：月曜休館(ただし、3月27日、4月3日、5月1日は除く)
5. 会場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL:06-6697-6221 FAX:06-6697-6225
HP:<http://www.omnh.jp/>
Osaka Metro御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m
6. 観覧料：大人1,800円(1,600円)、高大生1,500円(1,300円)、小中生700円(500円) ※()は団体料金。
※未就学児は無料 ※高大生は要学生証 ※団体料金は20名以上
※障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料(要証明)
※上記特別展料金で、大阪市立自然史博物館常設展も入場可能(当日限り)
※チケットのキャンセル・券種変更・払戻し・再発行は致しません。再入場はできません。
7. 主催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、関西テレビ放送
8. 特別協力：国立科学博物館
9. 後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会
10. 特別展HP：<https://www.ktv.jp/event/dokuten/>

■ミニ展示・テーマ展示のお知らせ■

ただいま、常設展示室では、期間限定のミニ展示・テーマ展示が開催中です。この期間しか公開されていない貴重な標本や、学芸員の研究成果、東南アジアの霊長類を写真家による色鮮やかな写真と共に紹介する展示を見ることができます。会期終了まであと少しのものもありますが、是非この機会にご覧下さい。

「長居植物園のMAKINO博」以外は自然史博物館 本館で行い、入館料（大人300円・高大生200円・中学生以下無料）でご覧いただけます。

●ミニ展示「道頓堀川のニホンウナギ」

昨秋、おおさか環農水研生物多様性センターとMBSテレビの番組「関西ジャニ博」が共同で、道頓堀川でニホンウナギの生息調査を行い、そこで採集された標本を展示しています。道頓堀川では、これまで学術調査による採集記録がなく、今回が学術調査における初記録および標本にもとづく初記録となります。汚いというイメージもある道頓堀川、大阪の街中にも素晴らしい自然があるということを知っていただき、身近な自然に興味を持っていただくきっかけになればと思います。

会 期:4月9日(日)まで
場 所:大阪市立自然史博物館 本館1階 出入口付近



▲道頓堀川のニホンウナギの標本

●ミニ展示「モウコガマ」

当館学芸員の横川昌史（植物研究室）によるモウコガマに関する研究論文が、日本植物分類学会より刊行されている学術誌「植物地理・分類研究」に掲載されました。大阪周辺では自生のモウコガマを見ることはないため、論文出版を機に、この研究で採集したモウコガマの標本をお披露目いたします。合わせて、研究の紹介もすることで、植物相研究の面白さを知れる展示です。

会 期:4月23日(日)まで
場 所:大阪市立自然史博物館 本館1階
ミュージアムサービスセンター付近



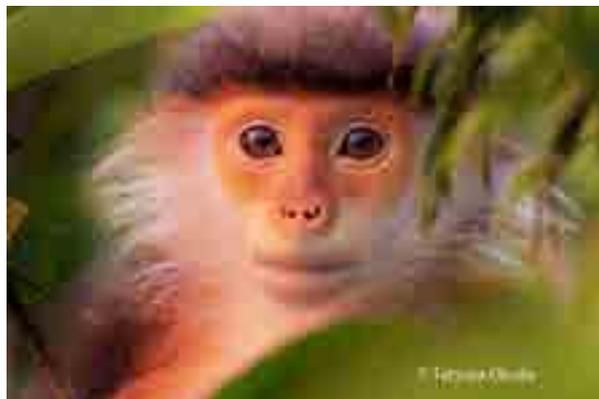
▲奥尻島での調査で偶然見つけたモウコガマ

●テーマ展示「絶滅危惧種 東南アジアの霊長類 ～奥田達哉写真展～」

東南アジアのジャングルで出会う霊長類の大多数の種が絶滅危機に直面しています。主な原因は生息地である森林の急激な破壊と密猟であり、いずれも人類に起因するものです。「手遅れになる前に、この状況を多くの方に知ってもらいたい」そんな思いに駆られて、写真家の奥田達哉氏は2年間にわたり霊長類を集中的に撮影しました。本展では、奥田氏の撮影した東南アジア霊長類の絶滅危惧種の写真の中から、ユニークな約10種を20メートル以上にわたる壁面での大型写真パネル展示でご紹介します。

※4月22日（土）午後2時～3時30分に、写真家の奥田達哉氏の講演を行います。詳しくは、行事案内のページをご覧ください。

会 期:5月12日(金)まで
場 所:大阪市立自然史博物館 本館1階 ナウマンホール



▲森に住むアカアシドゥクラングール。ベトナム戦争や森林破壊で個体数が減少している。

●長居植物園のMAKINO博～牧野博士のふるさと・高知県～

2023年度前期の連続テレビ小説『らんまん』（NHK）の主人公のモデルとなった牧野富太郎博士と、彼のふるさとの高知県にまつわる展示を、長居植物園で行います。ひふみホールの展示では、牧野博士の生涯や高知県の紹介のほか、自然史博物館所蔵の標本や樟蔭高等学校の教諭 竹下英一氏とやりとりした牧野博士直筆の書簡を展示します。

会 期:4月3日(月)～12月27日(水)
場 所:花と緑と自然の情報センター 1階 ひふみホール
料 金:無料

■2023年度の予定(特別展・行事)のお知らせ■

※詳細や参加方法などは、当館HPにてご確認ください。

●特別展「恐竜博2023」

この夏はトゲやウロコの化石です。恐竜博2023ですごい保存状態の恐竜ズールに会おう！

「化石って、やっぱり生き物だったんだな」そう思えるような、すごい恐竜がいます。ズールZuulと名付けられた全長9メートルの、アンキロサウルスの仲間です。

ズールのすごいところは保存状態です。化石は骨だけ、バラバラで、不完全で見つかることが普通です。ですが、ズールはおどろくことに皮膚であるウロコやトゲが残されていました。

また、肉の一部である腱(けん)も残されています。とくに巨大なハンマーのような尻尾のまわりには腱がびっちりとならび、巨大な重い骨でできた尻尾を支えていた「生き物らしさ」を感じることができます。

ズールはこの巨大なハンマーをつかって、襲いくる肉食恐竜から身を守っていたと考えられています。

恐竜博2023では、恐竜同士の攻守をテーマに、最新の研究や絶滅の謎に迫ります。

カナダのロイヤルオンタリオ博物館までいかななくても、大阪の自然史博物館でみることができる、貴重な機会です。お楽しみに。

会 期:7月7日(金)～9月24日(日)
会 場:大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)



▲ズール(左)とゴルゴサウルス(右)の対峙シーンを再現した全身復元骨格(東京会場撮影:山本倫子)

●特別展「自然史図(仮)」

学術的にも正しく実物を再現された、図鑑や論文などの研究に使われる絵や図を展示します。

会 期:2024年2月23日(金)～5月12日(日) (予定)
会 場:大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)

●教員のための博物館の日2023 in 大阪市立自然史博物館

毎年恒例の「教員のための博物館の日」です。学芸員による展示解説や植物園案内、体験型プログラムなどを行います。内容が決定次第、TM通信や当館HPでお知らせいたします。募集が始まれば、当館のHPから参加申込ができます。

会 期:8月3日(金)
会 場:大阪市立自然史博物館



▲去年の教員のための博物館の日の様子

■ 行事案内 ■

自然史博物館では様々な行事を開催しています。申込みが必要な行事がありますので、行事情報をチェックしてご参加ください。博物館ホームページ「イベント」メニューからも申込みが簡単にできます。

◎ 申し込み方法

往復はがきか電子メールに、下記の内容を書いて博物館普及係あてに申し込んでください(※切日必着)。博物館のホームページからも、お申し込みいただけます。

1. 参加希望の行事名
2. 参加者全員の住所・名前・年齢・電話番号
3. 返信連絡先(往復はがきには返信用のあて名)

※定員を超えた場合は抽選することがあります。

抽選結果、集合場所、集合時間、持ち物など、詳しい内容は返信ハガキか電子メールでお知らせします。

◎ 申し込み先

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館 普及係

ホームページ: <http://www.omnh.jp/>

e-mail: gyouji@omnh.jp

◎【ネット配信あり】となっている行事は、全てYouTubeを使った配信も予定しています。インターネット環境に接続することができるパソコン、スマホなどがあれば、ソフトなどをダウンロードする必要はありません。ネット接続できるパソコン・スマホは各自でご用意ください。

YouTubeの「大阪市立自然史博物館」チャンネル (<https://www.youtube.com/c/大阪市立自然史博物館/>) にアクセスして表題の番組をクリックしてください。開始時間になれば始まります。



▲自然史博物館の
YouTubeチャンネル
QRコード

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等によって、行事内容を変更または中止する可能性があります。

■ 植物園案内 ■

植物研究室の学芸員が長居植物園を案内し、その季節の植物の説明と観察を手引きします。また、動物研究室・昆虫研究室の学芸員が案内する、動物編・昆虫編もあります。

● 植物園案内

日 時：毎月第1土曜日 午後2時30分～4時

集 合：自然史博物館 ポーチ

参加費：無料(植物園入園料必要)

お問合せ：植物研究室

お申込み：不要

※6月3日(土)は、昆虫スペシャルです。

● 動物編(4月)「はじめてのバードウォッチング」

日 時：4月22日(土) 午前10時～12時

持ち物：双眼鏡、筆記用具、あれば鳥の図鑑

お問合せ：動物研究室 和田

● 動物編(5月)「公園で繁殖する鳥」

日 時：5月27日(土) 午前10時～12時

持ち物：双眼鏡、筆記用具、あれば鳥の図鑑

お問合せ：動物研究室 和田

● 昆虫編(6月)「昆虫」

日 時：6月24日(土) 午後1時～3時 雨天中止

持ち物：筆記用具、必要に応じてルーペ

(虫めがね)、図鑑など

お問合せ：昆虫研究室 長田

※動物編・昆虫編は、日時・お問い合わせ以外の概要は通常の植物園案内と同じです。

■ オープンセミナー【ネット配信あり】 ■

学芸員や研究者が自然史科学を話題に講演します。

● (4月)「プロジェクトY～大和川水系調査キックオフ～」

2002年～2006年に調査を行い、2006年に特別展「大和川の自然」を行ったプロジェクトY～大和川水系調査～が帰ってきます！大阪・奈良を流れる大和川水系の植物、昆虫、魚、貝、甲殻類、鳥類、両生は虫類、哺乳類、水質など、この20年間で大和川水系の自然がどのように変わったか皆さんと共に調べ、将来は特別展を開催します。今回は各分野の学芸員がどんなことを調べようと考えているか、各担当の学芸員がその内容や方法を熱く語ります。調査に参加しようと考えている方や大和川水系の自然に興味のある方はぜひご参加下さい。

日 時：4月15日(土) 午後1時～3時頃

場 所：自然史博物館 講堂

定 員：170名(申込み多数の場合は抽選)

参加費：無料(博物館入館料必要)

講 師：中条 武司(第四紀研究室)

お問合せ：第四紀研究室 中条

お申込み：不要

※5月28日(日)までYouTubeで見逃し配信を行います。

●(6月)「寄生する昆虫」

植物を食べたり、他の動物を食べたり、動物の栄養のとり方はさまざまですが、「寄生」という生き方もかなり広く見られます。特に昆虫では寄生バチや寄生バエでよく見られる、捕食寄生と呼ばれる、最終的に相手を殺してしまうタイプの寄生が一般的です。今回は昆虫のさまざまな「寄生」生活を紹介します。

日 時：6月17日(土)午後1時～2時頃
場 所：自然史博物館 講堂
定 員：170名(申込み多数の場合は抽選)
参 加 費：無料(博物館入館料必要)
講 師：松本史樹郎氏(昆虫研究室)
お問合せ：昆虫研究室 松本
お申込み：不要

※7月23日(日)までYouTubeで見逃し配信を行います。

■特別展関連行事■

●リレートーク「賢くてたくましい! 毒をもつき物あれこれ」【ネット配信あり】

様々な生き物が持つ毒、その活用方法について、動物、クラゲ、植物の専門家によるリレートークを行います。それぞれの生き物がどんな場面で毒を活用するのか、生き物のしたたかな生存戦略を解き明かします。

日 時：4月2日(日)午後1時～2時30分
場 所：自然史博物館 講堂
定 員：170名(先着順)
参 加 費：無料(博物館入館料必要)
講 師：佐野祐介氏(天王寺動物園 獣医師)
村井貴史氏(大阪市立自然史博物館 外来研究員)
長谷川匡弘氏(大阪市立自然史博物館 学芸員)
お問合せ：植物研究室 長谷川
お申込み：不要

※4月30日(日)までYouTubeで見逃し配信を行います。

●特別講演会「毒虫先生の痛し・かゆしの虫話」

自身が実験台となって、これまで50種以上の虫に刺されながら研究を続けている、「毒虫先生」こと、夏秋優さんをお迎えして、様々な虫による皮膚トラブル、虫に咬まれた時の対処法などをお話いただきます。“人体実験”の感想も必見です!

日 時：4月30日(日)午後2時～3時30分
場 所：自然史博物館 講堂
定 員：170名(申込み多数の場合は抽選)
参 加 費：無料(博物館入館料必要)
講 師：夏秋優氏(兵庫医科大学 医学部 皮膚科学 教授)
お問合せ：植物研究室 長谷川
お申込み：不要

※この講演は、ネット配信・見逃し配信はありません。

●開幕記念講演会「怖くて面白い、菌の魅力」

特別展「毒」の監修統括者・細矢剛さんをお迎えして、特別展制作にまつわる苦労話や秘話をお話いただきます。後半はカビやキノコを専門とする細矢剛さんと佐久間大輔さんが対談し、怖くて面白い「菌の魅力」について大いに語ります。

※この講演会は、3月18日(土)に実施済みです。4月15日(土)までYouTubeで見逃し配信中です。

■特別行事■

●普及講演会「東南アジア霊長類の魅力と絶滅危惧の背景」【ネット配信あり】

フィールドでの観察経験と写真を通し、東南アジア霊長類の表情の豊かさ、濃密な親子関係、種ごとに異なる生態などの魅力を紹介し、彼らに迫る絶滅危機と絶滅回避の為に出来る事について語ります。

日 時：4月22日(土)午後2時～3時30分
場 所：自然史博物館 講堂
定 員：170名(申込み多数の場合は抽選)
参 加 費：無料(博物館入館料必要)
講 師：奥田 達哉 氏(写真家)
お問合せ：動物研究室 和田
お申込み：不要

※5月31日(水)までYouTubeで見逃し配信を行います。

●第40回地球科学講演会・「地質の日」協賛行事「日本海拡大時の日本列島の変動—地質と古地磁気の研究からどこまでわかっているか—」【ネット配信あり】

日本海拡大時に、日本列島はどのように大陸から移動してきたのでしょうか。その時、日本列島はどのような変動を受けたのでしょうか。これまで日本海は1500万年前頃に拡大したと考えられていましたが、最近の研究によって拡大はもう少し前に起こり、1500万年前には拡大がほとんど終わっていたことがわかってきました。また、日本海拡大時に日本列島の地殻が広い範囲で変形したことや、拡大直後に西日本太平洋側で一斉にマグマ活動が起こったことなどもわかってきました。本講演会ではこれらの問題について、地質と古地磁気の初歩の解説も交えながら、最新の研究成果を解説します。

日 時：5月14日(日)午後2時～4時
場 所：自然史博物館 講堂
定 員：170名(申込み多数の場合は抽選)
参 加 費：無料(博物館入館料必要)
講 師：星 博幸 氏(愛知教育大学 教授)
お問合せ：第四紀研究室 中条
お申込み：不要

※6月18日(日)までYouTubeで見逃し配信を行います。

■テーマ展示「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」の報告■

今年度も、小中学生のみなさんの自由研究の成果を展示しました。

標本では、博物館に収蔵されていても遜色ないくらい、しっかりと記録も付いたアリの標本や、野生動物(ハシボソガラス)の死骸を見つけて「標本にしたいたい!」とホネにしてみた作品などの力作ばかりでした。身近な生き物も標本にし、記録に残していくことも重要です。

毎年、キノコをテーマに応募して8年、という中学生の研究もあります。研究ノートは膨大で、これだけ続けていてもまだ気付くことや発見があり、研究の奥深さがうかがえます。

今年、印象深かったのは、ウミサソリのロボットです。絶滅してしまった生き物を、現生の生き物から動きを想像し、実際に動くロボットを作ってしまうという驚きの研究です。自然科学と工学にまたがる大作でした。

また、今年は、昆虫食や環境問題など、SDGsを意識した研究もありました。

すべての研究ひとつひとつに、専門に近い学芸員からのコメントやアドバイスも一緒に展示されています。子ども達にとって、研究を続けるモチベーションや次の課題へのヒントにもなりそうです。

自然史博物館では、自由研究や標本作りを進める中で出てきた疑問や質問にも答えています。博物館 本館には、学芸員が自然に関する質問に答える窓口もありますので、そこで研究の相談もすることができます(その分野の専門の学芸員がいるか、事前に電話などで確認して下さい。)

この展示は毎年行っていて、11月頃に展示の募集があります。高校生以下で、自然に関する自由研究や標本を作っている方は、是非応募してみてください。



▲ハシボソガラスの骨格標本



▲ウミサソリのロボット

春の遠足のための植物園案内

日時：4月6日(木)・7日(金) 15:00～(45分程度)

集合：自然史博物館 ポーチ (クジラの骨の下)

春の遠足シーズンに見られる植物や野鳥を、長居植物園を歩きながら解説します。
遠足の下見として参加できます。

6日は、植物の学芸員が春の植物について解説します。

7日は、動物の学芸員が植物園や大池で見られる鳥について解説します。

※途中で抜けることも可能です。

※先に植物園案内に参加される先生は、16:00・16:30の回の下見説明会にご参加ください。

※別の日に下見説明会を受けている先生は、下見資料の入った封筒を入口で見せ、「遠足の下見で植物園案内に参加します」と言って植物園にお入りください。

▽▲ 編集後記 ▲▽

国立科学博物館で好評を博した特別展「毒」が始まりました。毒といえば、怖い・痛い・苦しいといったネガティブなイメージですが、同時になぜか人を惹きつける魅力があるようで、連日たくさんの方に見に来て頂いています。展示にもあるイラガに子どもの頃に刺されたことがあります。何十年も前のことですが、今でも思い出すとゾワッとします。でも、「うわっ…」と思いながらも見てしまうのです。(大江)

